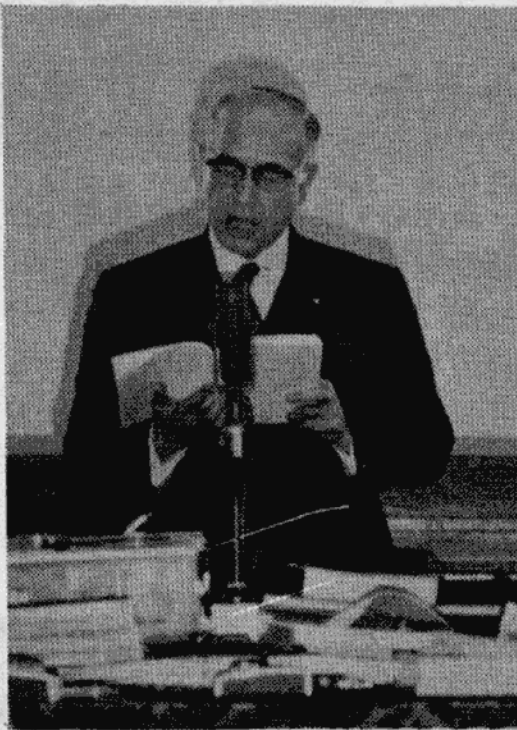


# 一般会計17億8,354万5,000円

## 昭和48年度市予算決まる

《星野市長の施政方針演説から》



施政方針演説に立つ星野市長

### 福祉・文教優先に

対前年度 一般会計三二・六%増額

昭和四十八年度の一般会計予算と、国民健康保険事業など五つの特別会計、および霧降リフト、水道の両事業会計予算が、三月に開かれた市議会定例会で議決されました。(議会記事別掲)市議会第一日の三月九日に行なった、星野市長の施政方針演説を中心に、四十八年度の市の重点施策と、予算のなかみをご紹介します。

#### 予算編成方針について

##### 人間尊重を理念に

「今日までのわが国経済社会の急速な発展を基調として、市民生活も向上し、豊かな暮らしを形成しつつありますが、反面、経済の成長は、土地・交通・公

害等の諸問題を惹起(じやつき)し、あまつさえ、人間疎外の風潮をもたらしております」  
「これが転期として、最近とみに福祉行政の充実が叫ばれ、経済成長優先から福祉優先へと、市民の行政に対する志向も、変化しつつあります」

「今後の市政は、これらの動向を敏感に察知し、これまで築かれた発展への基礎の上に立って、人間尊重を基本理念とした市民生活優先の施策を、より積極的に推進し、高福祉社会の実現に努力しなければならぬものと考えます」

「このような観点から、社会情勢の変化に対応しつつ、ローリング方式により策定いたしました、振興計画との関連を十分配慮し、市民福祉向上の要請にこたえ得るよう、財源の確保を図ると共に、経費支出の効率化

#### 予算規模について

と財源の重点配分を徹底し、經常経費については、極力これを抑制、実効性の確保に努めまして、昭和四十八年度の予算編成にあたったものであります」

##### 財源の確保に努力

「このような基本方針に基づき編成いたしました、昭和四十八年度の予算規模は、一般会計で十七億八千三百五十四万五千円。特別会計は、本年五月末日までの文化観光施設税による文化観光施設整備事業費、並びにリフト使用料の改定による霧降高原リフト事業会計を含めまして七会計を合わせて、四億三千三十八万一千円となり、合計二十二億一千三百九十二万六千円となります。これを昨年度に比較いたしますと、一般会計において三二・五六%、特別会計との合計額において一三・三五%の増額となります」

「前年度の当初予算に比し一般会計で三二%をこえる増額をみながら、特別会計との合計額で一三%強の増額に止まったのは、市長演説でもふれている文化観光税の徴収認可が、本年五月で十年間の期限が満了とな

## 新年度予算・条例制定など

30議案を議決

## 第1回市議会定例会開く

が、三月十九日で満了となったため、後任に野口清氏を選任することに、同意を得ました。

〔野口清氏〕昭和二十六年、日光町議会議員に当選。三十年・三十四年、市議会議員に当選。現日光市固定資産評価審査委員。現日光市社会教育委員長。現住所、下鉢石町八一七。五十八歳

◇議案第三号  
妊産婦医療費助成条例の制定 (詳細六ページに掲載)

◇議案第四号  
重度心身障害者医療費助成条例の制定 (詳細六ページに掲載)

◇議案第五号  
重度心身障害者介護手当支給条例の制定 (詳細五ページに掲載)

◇議案第六号  
市議会議員の報酬および費用弁償に関する条例の一部改正  
特別報酬審議会の答申に基づき、市議会議員の報酬月額が次のように改正されました。カッコ内は改正前の額。

議長 10万円 (六万五千円)  
副議長 8万円 (五万五千円)  
議員 7万円 (五万円)

◇議案第七号  
非常勤特別職の報酬および費用弁償に関する条例の改正  
社会教育指導員の新設に伴う報酬の規定と、学校医関係の報酬引き上げが行なわれました。

- ◇議案第一号  
専決処分の承認  
市営住宅の入居者資格として、収入基準を引き上げるよう条例が改正されました。
- ◇議案第二号  
日光市監査委員の選任  
監査委員小林庄太郎氏の任期
- 昭和四十八年第一回市議会定例会が、三月九日から二十三日までの会期で開かれ、新年度予算をはじめ、日光市土地開発公社の設立、都市競輪組合への加入、全国初の重度心身障害者の介護手当支給条例の制定など、三十件の議案と、諮問一件が審議されました。